

## 第1編

---

---

# 事業概要報告 (平成21年度)

---

---

---

# 1. 事業の概要

---

## 1-1 参加大学名（設置者名）

- 順天堂大学大学院医学研究科及び医療看護学研究科

学校法人順天堂（東京都文京区本郷2丁目1番1号）

理事長 小川秀興（事業推進代表者）

- 新潟大学医歯学総合研究科

国立大学法人新潟大学（新潟県新潟市西区五十嵐二の町8050番地）

学長 下條文武

- 東京理科大学大学院薬学研究科

学校法人東京理科大学（東京都新宿区神楽坂1丁目3番地）

理事長 塚本桓世

- 明治薬科大学大学院薬学研究科

学校法人明治薬科大学（東京都清瀬市野塩2丁目522番1号）

理事長 住吉義通

- 立教大学大学院理学研究科

学校法人立教学院（東京都豊島区西池袋3丁目34番1号）

総長 大橋英五

## 1-2 プログラム名

文部科学省 平成19年度 「がんプロフェッショナル養成プラン」

## 1-3 事業名称

実践的横断的がん生涯教育センターの創設

## 1-4 本事業の概要

本取組は、「がん患者の視点」に立った、「裾野の広い、且つ高い、品性」のある「がん医療」を目指し、大学の改革実践の「場」として「がん生涯教育センター」を創設するものである。

具体的には、本プラン実施に当っては、順天堂大学（以下「本学」という。）医学部附属6病院（所在地：東京、千葉、埼玉、静岡）の有するベッド総数3199床に加えて、養成環境をさらに充実させるため、新潟大学とがん治療において高い臨床能力養成実績を持つ国立がんセンター（中央病院・東病院）、静岡県立静岡がんセンター、癌研有明病院、東京都立駒込病院等と連携を結び、教育研究・診療環境を整備した。

またコメディカル養成については、連携している3つの大学院との協力を強化した。本プランによって、患者の視点に立った医療の実践という本学学是「仁」（人を慮る心、慈しむ心）を、「がん生涯教育センター」の活動を通して、がんに係わる多くの方々と共有する。

## 1-5 養成コース

大学名	研究科等名	専攻名	コース名
順天堂大学	医学研究科	環境と人間専攻、人体の生命機能専攻、人体の再生・再建専攻	医師（放射線療法、化学療法、緩和ケア）
新潟大学	医歯学総合研究科	分子細胞医学専攻、生体機能調節医学専攻、地域疾病制御医学専攻	医師（放射線療法、化学療法）
順天堂大学	医療看護学研究科	看護学専攻	コメディカル（がん専門看護師）
明治薬科大学	薬学研究科	臨床薬学専攻	コメディカル（がん専門薬剤師）
東京理科大学	薬学研究科	薬学専攻	コメディカル（がん専門薬剤師）
順天堂大学	医学研究科	環境と人間専攻、人体の生命機能専攻、人体の再生・再建専攻	コメディカル（医学物理士）
立教大学	理学研究科	物理学専攻	コメディカル（医学物理士）
順天堂大学	医学研究科	環境と人間専攻、人体の生命機能専攻、人体の再生・再建専攻	インテンシブ（医師、医学物理士）
立教大学	理学研究科	物理学専攻	インテンシブ（医学物理士）

## 1-6 養成計画

本学大学院は、本プラン全体を統括し、専門医師（放射線療法、化学療法、緩和ケア）とコメディカル（がん専門看護師、医学物理士）の養成を担当する。また新潟大学は専門医師（放射線療法、化学療法）、東京理科大学大学院と明治薬科大学大学院はコメディカル（がん専門薬剤師）、立教大学大学院はコメディカル（医学物理士）をそれぞれ分担して養成する。

### ● 専門医師コース

専門医師コースは、日本がん治療認定医機構のがん治療認定医を取得するとともに、放射線療法・化学療法・緩和ケアの専門医師養成を行う。開講は、順天堂大学及び新潟大学において行う。臨床での養成に当っては、本学では本学附属病院群のほかに、癌研有明病院、東京都立駒込病院、静岡県立静岡がんセンターと連携している。新潟大学では同付属病院と新潟県立がんセンター新潟病院と連携している。

開講は平成20年度から。

### ● コメディカル・コース

コメディカル・コースでは、がん看護師、がん薬剤師、医学物理士を養成する。養成はがん看護師を本学大学院で、がん薬剤師を明治薬科大学大学院と東京理科大学大学院で、医学物理士を本学大学院と立教大学大学院の連携で行う。養成に当っては各専門資格取得のための学習ばかりではなく、チーム医療を学ぶ実践的な教育を整備している。

開講は平成20年度。

### ● インテンシブ・コース

インテンシブ・コースでは、専門医師と医学物理士のインテンシブ研修を行う。専門医師研修では、がん治療認定医取得を目的とした養成プログラムを本学大学院において行う。医学物理士については、臨床研修を本学大学院において、基礎物理の研修を立教大学大学院において行う。いずれのインテンシブ研修も実施する大学院の科目等履修生として学習する。

専門医師の開講は、平成19年10月。

医学物理士の開講は、平成20年度。

## 2. 本事業の目的・必要性

### 2-1 全体

本補助事業の全体の目的は、本学におけるがん医療の改善を図り、「がんプロフェッショナル養成プラン」の目的であるわが国における質の高いがん専門医等の養成に資するため、主として本学を核として全コースに共通科目を設定し、他の3大学及びがん拠点病院群と連携し、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持ち、かつ高い研究能力を持つがん専門医等、がんにて特化した医療人材の養成を図ることである。

### 2-2 本年度

本補助事業の本年度の目的は、平成20年度に大学院の1年生を受け入れ、主に教室での授業を展開したが、本年度は各コースの実質化、特に臨床実習の具体的なプログラム化である。その中でもがん専門医師養成コースについて実施体制を工夫し実行性のあるプログラムを展開する。

コメディカル養成を担当している各連携大学院においては、平成20年度が第一年度目であったことから養成プログラムの見直しを行い一層の強化を図る。特に東京理科大学におけるがん薬剤師コースにおいて、平成20年度にがんの病態生理や抗がん剤の作用メカニズムを理解する科目を開講したが、薬学部には病理学実習がないことから、薬学部出身の学生の多くが、特にがん患者の病態生理に関する理解が乏しいことがわかり、がん専門薬剤師を養成上、重要な問題点となった。これを解決するために、がんの病理診断に関する実習のための設備備品を整備するものとした。

チーム医療合宿研修を平成20年度初めて開催し、この結果を分析し、実施強化を図る。

インテンシブの各コースを見直し一層の強化を図る。

本補助事業遂行のための教員養成等を継続して実施する。

大学院生のRA採用を継続実施し、がん専門の若手研究者育成事業を充実させる。

国内外のスピーカーによるシンポジウムの開催や「ニュースレター」やホームページを活用し、本補助事業の広報活動をより強化、充実させる。

本補助事業の2年間の活動報告書と本年度の活動実績をもとに、外部評価委員による評価委員会を開催し、本補助事業に対する改善等の助言等を得て、本採択プログラム後半の運営等を検討する。

## 3. 本年度の本事業実施計画

### 3-1 本年度の本事業実施計画

本年度の補助事業の目的を達成するため、次の項目を実施する。

- ① 4月 各連携大学院における大学院教育の実施
- ② 4月 教育職・事務職スタッフの雇用（新規・継続雇用）
- ③ 4月 若手研究者の雇用と研究奨励費の公募
- ④ 4月 長期研修と短期研修の公募
- ⑤ 4月 広報誌「ニュースレター」の発刊（4月、7月、11月、1月）
- ⑥ 4月 国内シンポジウムの開催
- ⑦ 6月 前年度報告書の作成
- ⑧ 7月 医学物理士の海外養成派遣
- ⑨ 9月 大学院生全員による合宿研修（授業科目「チーム医療」）開催
- ⑩ 9月 事業の取り組み更新とホームページのリニューアル
- ⑪ 11月 国際シンポジウムの開催
- ⑫ 2月 外部評価委員会の開催

5年間の研究期間において、本年度は上記計画を実施する。本事業開始にあたり、実施体制整備のため、センター創設等に係る経費が必要である。

### 3-2 22年度以降の実実施計画

- ① 当該プログラム拠点の「がん生涯教育センター」が、大学改革、特に大学院の横断的な教育体制の構築、教育の実質化、学位の取得とがん治療認定医の取得の両立等について、有効に機能するか常に見極めながら、センターを運用する。
- ② がん生涯教育センターが、社会や地域等における生涯教育の拠点として活動しているかを、活動の実践的な参加者数や受講者としての患者の声などを参考として、実効性のある活動を行っているかを評価しながら運用する。
- ③ がん生涯教育センターのプランによって育成されつつある専門人材が、チーム医療を具体的に実践しているかを教職員学生による合宿等で評価し、その結果を養成プログラムに反映させながら、養成プログラムを改善していく。
- ④ 本プランには、附属病院群におけるがん治療センターの専門人材養成機能向上も組み込まれていることから、キャンサーボードをはじめとして、効果的に教育的な機能が向上しているかを常時点検評価しながら、研修の場として整備する。
- ⑤ 外部評価委員会による評価を実施し、がん生涯教育センターにおける実施目標から、当該時点での実質的な活動等を評価する。患者の代表者を含めた評価委員を選任し、がん生涯教育センターをさらに発展させるために必要な視点等の助言や改善案の提言を受ける。

- ⑥ 教員の指導能力向上をさらに図るため、がん関連の研究会等については、国内外に若手教員を中心として毎年5名程度人選し、研鑽させる。現在、継続して実施しているファカルティ・ディベロップメント研修については、毎年開催し、学生の意見を数多く反映させた研修とする。
- ⑦ 学生からの声については、日常的に授業時の教員評価を行うが、学生生活等を含めた院生実態調査として、毎年1回実施する。これらの解析と評価については、運営委員会において学生の学修環境を把握し、必要のあるものは整備する。
- ⑧ がん生涯教育センターにおける各種活動を広報するため、ホームページやパンフレット、ニュースレター（年4回発行）を作成し、また教育研究・診療に関する公開シンポジウム・公開講座等は、毎年1回以上開催する。開催会場は、東京以外でも実施する。また、地域等における子女教育等の社会的な広報活動も行う。これらの活動をまとめた刊行物として、毎年、センター活動報告書を公刊する。
- ⑨ 本プランとして、若手研究者育成に関する研究力向上の費用として、年間12,000千円を予定している。若手研究者の研究力を高めるため経費について予算化し、必要な援助等を継続し行う。なお、成果については成果報告書としてまとめ公表する。

---

## 4. 本事業の内容

---

### 4-1 各連携大学院における大学院教育の実施

連携5大学院において今年度入学し、各コースへ登録した大学院生48名、インテンシブ・コース登録者43名に対し本取組における教育を実施した。

### 4-2 教育職・事務職スタッフの雇用（新規・継続雇用）

教育職・事務職スタッフを継続雇用するとともに、新規に生物統計担当1名、事業の円滑な推進を図るために事務部門に1名を採用し、事業体制の整備を図った。

### 4-3 若手研究者の雇用と研究奨励費の公募

若手研究者のためにリサーチアシスタントの募集を行い、将来の研究指導候補者として7名の育成を図ったが、若手研究者への研究奨励費の公募については次年度へ見送った。

### 4-4 長期研修と短期研修の公募

短期研修としてがん専門看護師育成のため、教員2名を米国 UCSF Medical Center へ派遣、また東京理科大学から米国 MD アンダーソン病院に1名派遣し最新の看護学、医学、医療情報の収集を行った。

### 4-5 広報誌「ニュースレター」の発刊（4月、7月、11月、1月）

広報誌「ニュースレター」を発刊（4月、7月、11月、1月）し、本取組に関する活動内容を連携大学・附属病院・関連施設へ配布し、事業関係者および一般（患者様等）へ本取組の広報に努めた。

### 4-6 国内シンポジウムの開催

国内シンポジウムを開催し、本取組を社会に広報するとともに最新のがん治療、がん看護領域についての情報提供を行った。H21.4.8「高度がん治療を目指して①」、H21.7.4「がん専門看護師として育つために」、H21.10.24「高度がん治療を目指して②」、また H22.1.8 文部科学省主催の大学院教育合同フォーラムにて本学の取組みを事例報告した。

### 4-7 前年度報告書の作成

これまでの活動内容を報告書として取りまとめ、自己点検と事業見直しの資料として、また外部評価に向けた資料として作成した。



#### 4-8 医学物理士の海外養成派遣

医学物理士コースの充実を図るため、教員2名を米国大学医学物理士研修に参加させ、医学物理指導者の育成を図った。

#### 4-9 大学院生全員による合宿研修（授業科目「チーム医療」）開催

授業科目 Component1「チーム医療」の一環として一泊二日の合宿研修（9/12-13）を実施した。合宿研修は、職種間連携の重要性、「チーム」の重要性を認識させる場となり、連携大学間の相互交流が図れた。5連携大学から参加者は、順天堂52名、立教3名、明治薬科7名、東京理科8名、新潟3名の計73名であった。（他に患者代表1、メディア1）

#### 4-10 事業の取り組み更新とホームページのリニューアル

本取組の広報のため、学内外からアクセスし易いホームページ（<http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/lab/cancer/index.html>）へ変更し、国内外のシンポジウム情報、事業情報等随時更新し、本取組の広報に努めた。

#### 4-11 国際シンポジウムの開催

今季は国際シンポジウムを3回開催し、海外での同分野の取組と本邦での事業比較を行った。H21.10.16「がん医療の懸け橋」、H22.1.18「国際がん看護学講演会」、H22.3.28「国際シンポジウム」

#### 4-12 外部評価委員会の開催

3年目を迎え、外部評価委員会の開催を予定したが、H22.1.8大学院教育合同フォーラムでの事例報告、年度末開催の国際学会等があり、今季の受審は見送り、H22.7.7に外部評価委員会を開催し外部委員から評価を受ける予定である。

## 5. 本事業から得られた具体的な成果

本年度の本事業計画を実施することにより、本事業から得られた具体的な成果は、以下のとおりである。

### 5-1 各連携大学院における大学院教育の実施

平成21年度、順天堂大学では120名の医学研究科入学者の中から7名が「がん専門家養成コース」に登録した。また連携大学の新潟大学では腫瘍放射線医学コース6名、がん化学療法コースへ11名が登録した。コメディカル分野では、順天堂大学がん専門看護師コースに2名が登録し、がん専門薬剤師コースに、明治薬科大学16名、東京理科大学4名が登録した。医学物理士コースにおいては、立教大学に2名が登録を行った。

インテンシブ・コースにおいては順天堂大学専門医師コースに4名、医学物理士コースに39名（順天堂37名、立教大2名）の登録があり、専門性の高い大学院教育を実施した。

### 5-2 教育職・事務職スタッフの雇用（新規・継続雇用）

教育職・事務職スタッフを充実させることで、専門性の高い教育研究支援が可能となり、雇用は事業運営に大きく寄与した。

### 5-3 若手研究者の雇用と研究奨励費の公募

大学院における若手研究者雇用（7名）は、将来教育研究の指導者として対応できる人材養成のために有効となっている。

### 5-4 長期研修と短期研修の公募

海外研修の実施により、最新の看護学、医学、医療情報の収集が可能となり、同成果は、本取組の教育研究指導に有効に活用された。

### 5-5 広報誌「ニュースレター」の発刊（4月、7月、11月、1月）

広報誌「ニュースレター」の発刊（4回）は、本取組みの活動内容を広く広報することとなり、事業成果を広く社会へ還元することが行えた。

### 5-6 国内シンポジウムの開催

国内シンポジウムの開催と大学院教育合同フォーラムでの事業報告は、事業成果の社会還元と、同事業実施他拠点に対して本取組の公表と普及につながった。

## 5-7 前年度報告書の作成

事業報告書の作成は、次年度事業の見直しを図るため、自己点検資料として、また外部評価を受審するための資料として作成した。

## 5-8 医学物理士の海外養成派遣

米国の医学物理士養成課程に教員を派遣し研修させることで、本取組における医学物理士養成コースの教育研究体制の強化を図ることができた。

## 5-9 大学院生全員による合宿研修（授業科目「チーム医療」）開催

授業科目「チーム医療」合宿研修の実施は、職種間連携の重要性を認識させるとともに、チーム医療の在り方を再認識させる機会となった。職種の異なる73名の参加は、本プログラムへの関心の高さとの現れで、開催目標を十分に達成できた。

## 5-10 事業の取り組み更新とホームページのリニューアル

本取組の広報はインターネットを介し行っている。このため見やすいホームページとし、学内外の多分野の研究者・学生に対し多種多様な情報提供と開講講義情報を提供することができ、医師、非医師に参加の機会を提供できた。広報の結果、21年度には本学開催50講義に538名が参加し、最新の情報の提供が行えた。

## 5-11 国際シンポジウムの開催

海外研究者からの事例報告と情報交換は、今後のがん教育およびがん研究への方向性を見直すのによい機会でもあり、本取組に対する自己点検の場ともなった。

## 5-12 外部評価委員会の開催

これまでの取り組みを自己点検し、実績報告に基づき、今後の事業展開と現状について外部評価委員による評価を受審する資料の準備を行った。H22.7.7に外部評価委員会を開催し外部評価を受審する予定である。

## 6. 平成21年度設備備品費補足表

平成21年度設備備品費補足表 (1/2)

		平成22年 4月 23日	
品名	数量	合計金額 (円)	交付決定時点での納入予定時期
HPLCシステム	一式	2,744,700 据付調整費含む	H21.4.30
放射線計測実習用 タフオクター ファントム	一式	791,360	H21.10.30
医学物理士養成用線 量測定システム MapCHECK IMRTQA システム	一式	6,723,983	H21.10.30
			実際の納入日
			H21.6.18

計画時点での目的・用途

実際の用途及び利用頻度 (利用頻度の実態が補助事業の内容・実施計画等と比較し整合性・妥当について具体的に記述願います。)  
新たに購入した理由、又は当初購入予定の設備備品を購入しなかった理由 (新たに購入した場合においては、代替できる既存物品の有無を必ず記述して下さい。)

本設備品は、選定事業におけるがん専門薬剤師を目的として、東京理科大学において開講される「がんプロ特論」において、学生が実習で組織内濃度計測を行うものである。利用頻度は、本年度特論 (前期) 15回×90分を予定しているが、ゼミ等で継続した研究を実施利用も予定している。今後大学院生の増加に伴い、通年での開講とゼミでの機器使用となる見込みである。  
当初計画したとおり、選定事業におけるがん専門薬剤師育成を目的として開講された「がんプロ特論」において、学生が実習で組織内濃度計測を行った。  
当初予定していた本年度特論 15回のうちの3回×90分の他、がんに関する医療系研究室におけるゼミや研究においても月に1回程度利用した。  
本設備品は、がん専門薬剤師育成に特化した機器である。学内に代替できる設備機器は存在しなかったため、購入したものである。

本設備品は、選定事業における医学物理士養成コースに係る放射線計測実習を実施するために必要な補助物品としている。  
当初計画したとおり、選定事業における医学物理士養成において、週1日×90分の放射線計測実習にて使用している。  
当初予定していた週1日×90分 (休日、夏休み等の期間を除く。) の放射線計測実習にて使用するとともに、IMRTの品質管理、放射線治療装置品質管理実習の実習においても使用しており、現在は、週3日×90分使用している。  
本設備品は、新規に医学物理士養成コースにおける放射線計測実習を行うためのものであり、学内に代替できる機器は存在しなかったため、購入したものである。

本設備品は、選定事業における医学物理士養成コースに係るIMRT品質管理実習を実施するために必要な補助物品としている。  
当初計画したとおり、選定事業における医学物理士養成において、週1日×90分のIMRT品質管理実習にて使用している。  
本設備品は、新規に医学物理士養成コースにおけるIMRT品質管理実習を行うためのものであり、学内に代替できる機器は存在しなかったため、購入したものである。

平成 21 年度設備備品費補足表 (2/2)

品名	数量	合計金額 (円)	交付決定時点での納入予定時期	実際の納入日	計画時点での目的・用途
医学物理実習用 強度変調型放射線計 測装置 PROFILER2 アドバンストビーム QA システム	一式	3,333,257	H21.10.30	H22.1.20	実際の使用及び利用頻度 (利用頻度の実態が補助事業の内容・実施計画等と比較し整合性・妥当について具体的に記述願います。) 新たに購入した理由、又は当初購入予定の設備備品を購入しなかった理由 (新たに購入した場合においては、代替できる既存物品の有無を必ず記述して下さい。) 本設備備品は、選定事業における医学物理士養成コースに係る放射線治療装置品質管理実習を実施するために必要な補助物品としている。 当初計画したとおり、選定事業における医学物理士養成において、週 1 日×90 分の放射線治療装置品質管理実習にて使用している。 本設備備品は、医学物理士養成コースにおける放射線治療装置品質管理実習を行うためのものであり、学内に代替できる機器は存在しなかったため、購入したものである。
放射線計測実習測定 データ収集解析用 PClets Note CF-W8 ブラックモデル CF-W8GWJCJR	一式	199,500	H21.10.30	H21.10.29	本設備備品は、上記の MapCHECK および Profiler の測定制御とデータ解析を行うことと している。 当初計画したとおり、MapCHECK および Profiler の制御と測定データの解析を行うために 使用している。実際の使用頻度は、週 4 日×120 分である。また、測定終了後は、測定デー タの解析実習のために活用することとしているため、週 4 日×120 分使用するに至ってい る。 本設備備品と同種の機器は学内にも存在するが、本設備備品は、測定機器の制御とデータ 解析を行う必要があるため、 ① CPU . . . . . 1.4GHz 以上 ② OS . . . . . Windows Vista 32bit ③ メモリー . . . . . 2GB 以上 ④ HDD 容量 . . . . . 100GB 以上 のスペックが必要であり、さらに、移動しながら使用するため、小型かつ軽量のものが必 要であった。購入時点で本仕様にある学内既存物品が見当たらなかったため、購入したも のである。
マルチプロジェクト シヨンカメラ (エプソン)液晶プロ ジェクター EB-825VP)	一式	170,100	H21.10.30	H21.12.22	本設備備品は、選定事業における医学物理士養成コースに係る講義において、カメラシ テムとプロジェクトにより、精密物品そのものをスクリーンに投影し、講義を行うこと としている。 当初計画したとおり、選定事業において、週 1 日×90 分における放射線計測学等の講義の 際に使用している。 当初予定していた週 1 日×90 分 (休日、夏休み等の期間を除く。) の研修で講師が使用す るとともに、医学物理士養成コースの編講にも拡大し、現在、週 2 日×90 分使用してい る。また、研究打ち合わせへの使用も認めることとしているため、これらを含めると週 3 日、1 日平均 90 分使用するに至っている。 本設備備品と同種の機器は学内にも存在するが、本設備備品は、精密物品の実物をカメラ で写すシステムが組み込まれていない。本物品はプロジェクトだけでなく、カメラシ テムを含んでいるため、今回新規購入したものである。
合計		13,962,900			

## 7. 養成コース一覧

### 7-1 大学院コース

#### ● がん専門医師（放射線療法、化学療法、緩和ケア）

本コースは、学位のほか、がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）を取得するとともに、日本放射線腫瘍学会認定医（日本放射線腫瘍学会）、がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、放射線治療専門医（日本医学放射線学会）の資格取得を目指す。また、緩和ケアに関する専門医師養成も行い、緩和ケア関連認定医等の制度が整備され次第、当該資格取得も予定する。

- 順天堂大学大学院 医学研究科
- 新潟大学大学院 医歯学総合研究科

#### ● がん専門看護師

本コースは、日本看護系大学協議会が規定制定しているがん看護の専門看護師教育課程に基づき実施する。がん看護のCNS認定カリキュラムを連携する協力病院での実地修練も含めた2年間の教育である。

- 順天堂大学大学院 医療看護学研究科（修士課程）

#### ● がん専門薬剤師

本コースは、修士コースと博士コースがある。修士コースの養成の対象は、主にごがん専門薬剤師資格申請のための基礎条件であるがん薬物療法認定薬剤師認定申請資格取得を目標とする社会人学生である。また、博士コースは、がん専門薬剤師認定申請に必要な資格取得を主としたカリキュラムである。

- 東京理科大学大学院 薬学研究科（修士課程）
- 明治薬科大学大学院 薬学研究科（博士課程前期課程）
- 明治薬科大学大学院 薬学研究科（博士課程後期課程）

#### ● 医学物理士

本コースは、米国認定レジデンスを修了した教員による米国標準の医学物理教育を行う。順天堂大学大学院と立教大学大学院との連携による修士・博士一貫教育で、基礎科学をメインとした医学と物理学とのコラボレーション教育が大きな特徴である。

- 順天堂大学大学院 医学研究科（博士課程）  
先端放射線治療・医学物理学講座
- 立教大学大学院 理学研究科（博士課程前期課程）

## 7-2 インテンシブ・コース

### ● インテンシブ（専門医師）コース

本コースは、各学会の認定医あるいは専門医を取得した医師を対象に、一定期間、がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を修得するためのがん治療認定医（日本がん治療認定医機構）資格取得を目標としたコースである。

■ 順天堂大学大学院 医学研究科

### ● インテンシブ（医学物理士・臨床）コース

本コースは、すでに医学物理士認定を受けた方々を対象に、医学物理士の臨床業務に関する3～6カ月間の集中訓練を行う。本コースでも、米国認定レジデンスを修了した教員が米国標準の臨床研修指導を行う。新たな視点から医学物理士業務のレベルアップを図る。

■ 順天堂大学大学院 医学研究科（博士課程）

### ● インテンシブ（医学物理士・基礎）研修コース

本コースは、すでに医学物理士認定を受けている方々を対象に、医学物理士の臨床業務に必要な基礎科学に関する集中講義を行う。基礎科学的な知識を身につけることで、基礎科学の理論に基づく臨床判断を可能とし、マニュアル化、ルーチンワーク化された医学物理士業務を見直すきっかけを与えることが目的である。

■ 立教大学大学院理学研究科

## 8. 養成実績

### 「がんプロフェッショナル養成プラン(平成19年度選定分)」養成実績

大学等名：順天堂大学

連携大学等名：明治薬科大学、東京理科大学、立教大学、新潟大学

	コース名	養成する 専門分野	大学名	養成（受入） 合計人数			取得が見込まれる 各学会認定資格等 (学会等名)	受入 開始 時期	
				H19 実績	H20 実績	H21 実績			
				47	0	23	24		
(1) 専門医師 養成コース	専門医師コース	放射線療法、 化学療法、 緩和ケア	順天堂 大学	17	0	10	7	がん治療認定医 (日本がん治療認定医 機構) 放射線治療専門医 (日本医学放射線学会) がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会) 緩和医療専門医 (日本緩和医療学会)	H20. 4
	腫瘍放射線医学	放射線療法	新潟大学	13	0	7	6	放射線治療専門医 (日本医学放射線学会)	H20. 4
	呼吸器内医科学又は 血液学(腫瘍内科学)	がん化学 療法	新潟大学	17	0	6	11	がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会)	H20. 4
(2) コメディカル 養成コース				46	0	23	23		
	コメディカル (がん看護師)コース	がん看護 専門看護師	順天堂 大学	6	0	4	2	がん看護専門看護師 (日本看護協会)	H20. 4
	コメディカル (がん薬剤師・明治薬 科大学修士)コース	がん専門 薬剤師	明治薬科 大学	28	0	12	16	がん専門薬剤師 (日本病院薬剤師会)	H20. 4
	コメディカル (がん薬剤師・明治薬 科大学博士)コース	がん専門 薬剤師	明治薬科 大学	0	0	0	0	がん専門薬剤師 (日本病院薬剤師会)	H20. 4
	コメディカル (がん薬剤師・東京理 科大学修士)コース	がん専門 薬剤師	東京理科 大学	5	0	2	3	がん専門薬剤師 (日本病院薬剤師会)	H20. 4
	コメディカル (医学物理士)コース	医学物理士	順天堂 大学	4	0	4	0	医学物理士 (日本医学物理士認定 機構)	H20. 4
	コメディカル (医学物理士)コース	医学物理士	立教大学	3	0	1	2	医学物理士 (日本医学物理士認定 機構)	H20. 4